

所属・氏名（心理科学研究科 実践臨床心理学専攻 氏名：羽山 順子）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (論文) 小児の睡眠問題に対する行動科学的アプローチ.	共著	2011年	久留米大学心理学研究. 10;150-158.	夜泣き、寝渋りのような小児の睡眠問題に対する、行動科学的アプローチの各種技法とその効果について紹介、解説している。また、本邦での小児の睡眠問題に対する研究についても解説した。 <u>羽山順子</u> , 津田彰.
2 (報告書) 行動療法による生活習慣改善がメンタルヘルスに及ぼす影響の検討.	共著	2011年	メンタルヘルス岡本記念財団研究助成報告集. 22:53-57.	職域の労働者対象に、減量プログラムに参加した者の睡眠およびストレスの変化を検討した。その結果、体重は減少し、血液数値にも改善が見られたが、睡眠とストレスはプログラム参加前から問題のあった者のみに改善が見られ、変化は限定的であった。 <u>羽山順子</u> , 足達淑子, 山上敏子, 津田彰.
3 (解説) 子どもの睡眠に関する日米の差異—睡眠問題と養育行動の関係から—.	共著	2013年	小児科臨床, 66(10):2037-2041.	小児の睡眠問題発生維持の機序をオペラント条件づけの観点から解説し、小児の睡眠問題の予防法、改善法について一般の小児科医向けに解説した。 <u>羽山順子</u> , 津田彰.
4 (講演) 学習理論に基づく乳児の睡眠習慣形成と支援.	単独	2015年	第79回日本心理学会	育児支援および母子の健康増進のために、乳児の良好な睡眠習慣形成を目的とした調査と介入を行った。夜泣き時に抱いたり授乳することは、夜泣きを悪化させた。夜泣きの予防を目的とした教育を行った。その結果、教育群の母子は統制群よりも睡眠習慣が規則正しく、母親は自身の健康に関する愁訴が少なかった。
5 ()				